

上衣

丈 腰のあたりまで。背丈より二〇センチ(五寸三分)ぐらゐ長く。

袖丈 三〇センチ(八寸)以内。

袖口 一五―一七センチ(四寸から四寸五分)。

袖附け 一九―二三センチ(五寸から六寸)。

身八ツ口 五センチ(一寸三分)。

衿幅 四・五―五・五センチ(一寸二分から一寸五分)。

衿肩あき 七―八センチ(一寸八分から二寸)。

衿下 一五センチ(四寸)内外。

その他の寸法は、標準服乙型上衣と同じやうに考へてきめます。

◇ 身八ツ口の少いのはなぜでせう。又、くり越し・前下りをつけないのはなぜですか。

下衣

脇丈

、腿幅 腰廻りの四分の一に九センチ(二寸四分)内外加へます。

脇あけ 一九センチ(五寸)。

裾口廻り

裾幅

前後の差 三センチ(八分)内外。

さら 一五―一九センチ(四寸から五寸)の正方形。但し必ずしも

正方形でなくても差支ありません。

後紐丈

後紐幅 五センチ(一寸三分)。

◇ 寸法の書いてない所は、どのやうにしてきめますか。

中等被服三

文部省

(中) ¥ .30

(112)

昭和二十一年四月一日印刷 同日開始印刷
昭和二十一年四月五日發行 同日開始發行

〔昭和二十一年四月五日 文部省検査済〕

中等被服 三、【中】定價參拾錢

著作権所有 著作者 文 部 省
發行者 東京都神田區岩本町三番地

發行所 中等學校教科書株式會社
代表者 龜井 寅雄

印刷者 大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉郎

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Apr. 1, 1946)

發行所 中等學校教科書株式會社

教科書審檢 112ノ三

下ばき	三
腹巻	三
巻合はせ式下衣(袴)	三
四 男児服	三
幼兒用半ズボン	三
五 作業服	三
作業服(その一)	三
作業服(その二)	三
作業用帽子	三
手甲・手袋・手さしの類	三
脚絆・巾褌ひの類	三
六 外被類	三
防寒・防雨用外被	三
七 平常着(男物)	三
上衣・下衣	三
羽織	三
袷長着	三
はんてん	三
八 被服生活の計畫	三

◇ 下の裁ち方図に、各員の

寸法を入れて総用布を調べ

てもらいなさい。

◇ 羽織或は長着からの仕立

て替へを考へて、裁ち方図

を書いてもらいなさい。

◇ 膝の補強にはどんな工夫

をすればよいでせう。

下図のほかに肩當て・かくし
などは適宜な大きさを考へて裁
ちます。

なほ拾仕立てにする時は裏布
は表布にならつて、身ごろ・袖・
下衣の前後布及びまち布を取り
ます。

袖口布・かくしなどは表布・
裏布・別布いづれでも差支あり
ません。

三 標附け

上衣

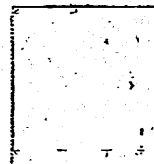
三 平 常 着 (女 性)

袖口	上衣	正衣	下衣	下衣	拾紐 その他
----	----	----	----	----	-----------

下衣	拾紐		拾				まち
	前	後	前	後	前	後	

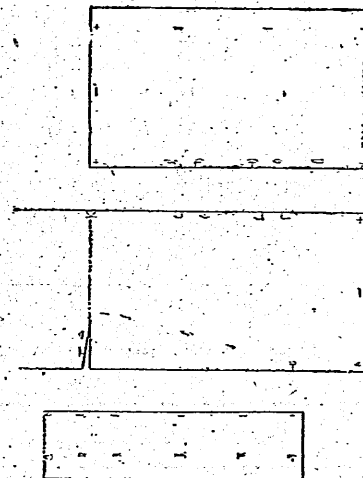
(一) 袖

◇ 袖下の標はどんな線にしますか。



(二) 身ごろ

後幅より肩幅を廣くする時は、袖附けを肩附けにします。



◇ 身ごろの脇の縫ひ代を一センチ(三分)取つて後幅をきめるのと、背の縫ひ代を一センチ(三分)取るのとで、どのやうな縫ひが出来ますか。

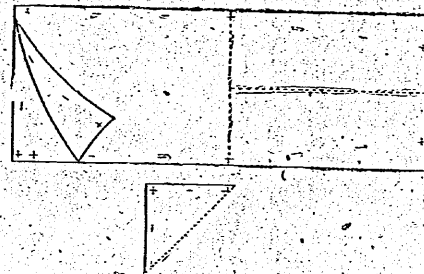
◇ 紐通し穴は左脇のどの位置が適當ですか。

下 衣

付りの位置は肩幅より肩幅から上を附けにします。これは、はき具合

◇ 膝上に就いて、既習のものと比較してごらん下さい。

◇ 腰幅が狭くて縫込みの多い時には、脇と膝下とどちらで縫ひ込んで下さい。



拾仕立てにする時の裏布の標附けは、表布と同様に附けて縫ふ時に裏の幅を心もちつめます。

四 縫ひ方

上 衣

單仕立ての場合には、標準服乙型の上衣を應用して縫ひます。

◇ 身ごろの縫ひ方で標準服乙型の上衣と違ふ所はどこですか。

拾仕立ての場合

(一) 袖

羽織の袖を應用して縫ひます。

(二) 身ごろ

三 平 常 着 (女 性)

(イ) 表・裏布の身ごろの背・脇縫ひ 左脇に紐通し穴をあけます。
(ロ) 背・脇の縦縫ひ 紐通し穴は上下を四つ留めにし、身八つ口のやうに縫ひます。

(ハ) 身八つ口縫ひ

(ニ) 袖下縫ひ

(ホ) 裾の始末 表裏を一枚と見なし、三つ折りぐけにします。

(ヘ) 袖付け 袖羽縫と同様に附けます。

◇ 表裏反対に折りを附けるのはなぜですか。

(ト) 袖付け・掛衿

(チ) 紐付け

(リ) かくし・附け

(ヌ) 肩揚げ 中裁ちの單長着にならひます。

下衣

(イ) 脇上縫ひ 前の脇上は紐附けの標まで縫ひます。

(ロ) まち附け及び脇下縫ひ

◇ 縫ひ代の始末はどうしますか。

(ハ) 脇縫ひ及び脇あけの始末 下部に裾口あき、右上に脇あけをつけて脇縫ひをします。脇あけの後方には見返し布を附け、前の方には幅三センチ(八分)ぐらゐの持出し布を附けます。

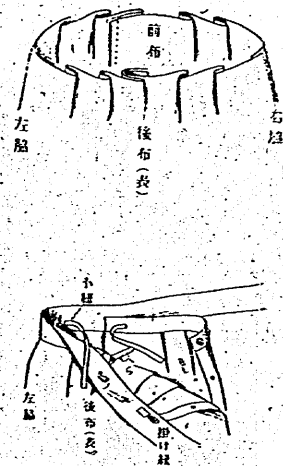
(ニ) 裾口あきの始末及び裾口布附け

(ホ) 上部の始末

髪取り 胴廻りの寸法を取り、餘分を次の圖のやうに中央とそ

の左右に二つづつ襷にします。

表の中央の襷は、五センチ(一寸三分)を二つに折り、前



紐附け 前の右半分に前紐を附けます。次に前の左半分と後に後紐を附けます。

◇ 後の襷の中央が落ち着くやうにするには、どう工夫したらよいでせう。

(ヘ) ボタン付け・掛け紐付け・穴かき及びくわんぬき留め

◇ かくし・膝當て付けはいつしますか。

◇ 袷仕立ての場合には、どんな順序で縫ひますか。

五 仕上げ

◇ 型み方はどんなにしますか。

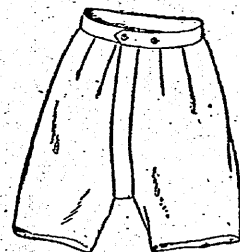
着用・手入れ

下ばき

形

下ばきはいろいろに工夫する必要がありますが、次に示すものはその一例です。

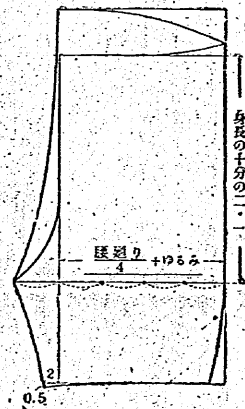
◇ どこに特徴があるでせう。



材料
仕立て方

一 型紙の取り方

◇ 一年の時作つた下ばきの型紙の取り方と、次の図と違ふ點を擧げて、その理由を考へてごらん下さい。



持出しの紐は五センチ（一寸三分）から、腰布の幅は四センチ（一寸）ぐらい。

◇ 麻本綿を用いて作る時、布の長さは何ほど必要ですか。

三 縫ひ方

持出し布の附け方 前布・後布の胯上に持出し布を附けます。

腰布附け 前後の幅を測り、腰布丈との差を適當につまみます。次に後の中心を合はせ、持出し布を落着け、假紐をして腰布を附けます。

穴かきり・ボタン附け 紐を附けてもよいのです。

参考

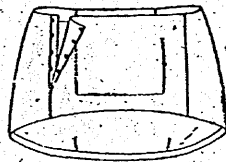
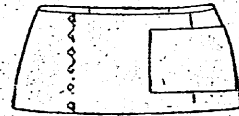
並幅に次のやうなまちを入れて、簡単に仕立てることもあります。



腹巻

腹巻は保健上から大切なばかりでなく着附けの形をも整へます。簡単に晒木綿を折り疊んでも用ひますが、皺が寄つたり、すれ上つたりしますから、からだに合はせ、いろ／＼工夫して仕立てることが肝要であります。

形



材料

◇ どんな材料が適しますか。

仕立て方

一 型紙の取り方

腹巻のきついは保健上よくありませんから、多少融通のきくやうに工夫します。

◇ からだのどここの寸法が必要です。正確に測つてごらん下さい。

◇ つまみ分量は全體で何ほどになりますか。

つまみ分量は、肩のやうにし、その割合に肩を二、股を二と

二 裁ち方

一枚の布を用ひてつまみを縫ひ消してもよく、又、小さい布をはぎ合はせてもできます。

あきは前中心、或は前のつまみの位置として、重なり分を考へて裁ちます。裏附きにするともあります。

三 縫ひ方

(イ) つまみの縫ひ代は、生地によつて、割つたり片返しにしたります。

(ロ) 周囲には普通、見返しを附けます。

◇ 裏附きの場合、つまみの折りはどうしますか。

(ハ) ボタン附け・掛け紐附け

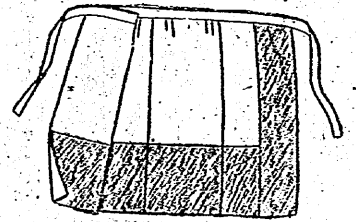
(ニ) かくし附け

着用・手入れ

腹巻は直接肌に着けない方がよいのです。

巻合はせ式下衣(袴)

◇ 裏布の用ひ方はほか
にどんな工夫がでま
すか。



仕立て方

一 標附け
二 縫ひ方

(イ) 表の背縫ひ・脇縫ひ

(ロ) 奥裏と裾廻しのはぎ合はせ

(ハ) 裏の背縫ひ・脇縫ひ

(ニ) 裾合はせ つま先は裾ふきの

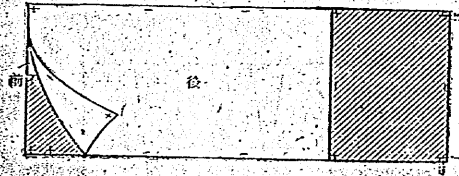
一倍半ぐらゐの間で、自然につ

ま型にし、全體に〇・三センチ

(二分)のきせをかけて表へ返

し、ふきの寸法を整へてしつけ

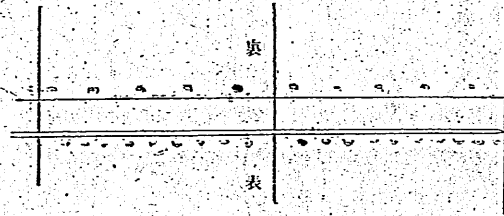
をかけます。



(ホ) 縦綴ち

を出して縫ひます。

(チ) 髭取り
(リ) 紐附け



四男児服

乳児のうちには男児も女児も殆ど同じ形のもを着ますが、三歳頃から男児は上衣とズボンとに分れたものを用ひます。

上衣の形は、幼児用のは男女児とも殆ど變りません。

下衣は半ズボンを多く用ひ、上衣又は胸衣にボタン留めにしたたり、或は襟で吊つたりします。學齡頃からは帯でしめる半ズボンをはきます。しかし、近頃は、幼児も長ズボンをはくことがあります。



幼児用半ズボン

形

兩脇をあげ、前膝上にあきを作つたものです。上衣又は胸衣にボタン留めになります。

中等被服三

文部省

[後] ¥ 1.10

(112)